第３学年　国語科学習指導案

[redacted]

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

中学年分科会の目指す児童
「言葉に着目し、自分の思いや考えをまとめ、伝え合う児童」

1　単元名　　「生き物のふしぎを伝え合おう」
　教材名　　「ありの行列」（光村図書第３学年下巻）筆者　大滝　哲也

2　単元の目標と評価規準

（１）単元の目標

・段落の役割について理解することができる。【知-（１）カ】
・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。【思C-（１）ア】
・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。【思-C（１）オ】
・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付く。【思C-（１）カ】
・言葉がもつよさに気付くとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。【主】

（２）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。【知-（１）カ】	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。【思C-（１）ア】 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。【思-C（１）オ】 ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付いている。【思C-（１）カ】	①　粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、学習の見通しをもってわかったことをまとめようとしている。

３　本単元について

（１） 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語編第３学年及び第４学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

［知識及び技能］

（１）カ　主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

［思考力、判断力、表現力等］　Ｃ　読むこと

（１）ア　段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。

オ　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の２つである。

①段落と段落のつながりを捉えて文章の内容を理解する力

②文章の内容を理解したうえで感想をもち、伝え合う力

上記を身に付けるために、本単元は、「生き物のふしぎを伝え合おう」という学習課題を立てた。説明的な文章の学習として、これまでに、順序をおって読む力や、大事な語や文に気を付けて読む学習を行ってきている。また、「段落」の意味やはたらきについて学び、意味段落につながる「文章のまとまり」を意識して内容を捉える力を養ってきた。

本単元では、まず、教材文のありが行列を作る仕組みについて、的確にその内容を読み取り、感想をもつことが不可欠となる。観察に基づいた事実をもとに仮説を立て検証して結論を導くという、論の展開がある説明文は、これまでに学習してきた「問い」の「答え」が事例として説明される文章とは異なるものである。今まで以上に段落相互の関係に着目することが必要となるため、身に付けさせたい力につながると考えた。また、教材文から興味や関心を広げ、自分で調べた生き物の生態等について不思議に思ったことをカードにまとめ「生き物のふしぎレポート」としてまとめるという言語活動を設定する。自分とは異なる他者の考え方を知り、認め合うことが楽しさや嬉しさにつながり、思いや考えを伝えていきたいという主体的な学びに向かう姿勢を培えると考えた。

（２）児童観

[redacted]

[redacted]

（３）　教材観

本教材は、児童にとって、身近に感じられるであろう「あり」を題材にした説明文である。理科の授業開きで観察をしたこともあり、ありの行動についてのイメージもしやすく、取り組みやすい教材といえる。

文章の構成は、「問い、説明、答え」の尾括型の文章である。これまでのように「問い」に対する「答え」を列挙するだけではなく、「説明」を重ねて末尾で「答え」を示す、典型的な問題解決型の文章構造となっている。「説明」では、理科的研究手順の基本である「調査・観察→結果→考察」という段落ごとの形式が繰り返され、研究が進んでいく有様が分かりやすく述べられている。また、「問い」から「答え」にたどり着く過程を、分かりやすく述べている文章でもある。段落相互の関係を考えるために重要になる指示語や接続語も多く使われており、確かめながら読むことが、叙述を基に捉えることにつながると考えた。

児童の興味関心を引き出しやすく、さまざまな感想や考え方が出てきやすい本教材は、単元の目標に適したものであると考える。

（4）学習材の分析

＜ありの行列＞

	初め	中							終わり
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
段落の役割	「問い」（問題提起）	ウィルソンの紹介	実験①	実験②	実験の考察 新たな問い	ありの研究	研究の結果	中のまとめ	全体のまとめ（結論）
段落の内容	問い　なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。	ウィルソンという学者の紹介 ・実験を行い、ありの様子をかんさつした。	実験①…巣から少しはなれた所に、ひとつまみのさとうをおいた。 ・巣の中から、たくさんのありがでてきた。 ・はじめに通った道すじから、外れていない。	実験②…大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎってみました。 ・行列は、ちりぢりになった。 ・まただんだんに、ありの行列ができた。 ・帰るときも、行列の道すじはかわらない。	実験の考察 ・地面に何か道しるべになるものを付けておいたのではないか。	あり研究…はたらきありの体の仕組みを、細かに研究した。 ・ありは、おしりのところから、とくべつのえきを出す。	研究の結果 ・ありの行列のできるわけを知ることができた。	研究の考察 ・えさを見つけると、道しるべとして、地面にこのえきをつけながら帰る。	このように、においをたどって、えさの所へ行ったり、巣に帰ったりするので、ありの行列ができるというわけです。
着目させたい言葉、文	ものがよくみえません。 ～できるのでしょうか。	実験 かんさつ	はじめに 道すじ　外れていない	次に 道すじはかわりません。	これらのかんさつ 道しるべ	そこで においのある、じょうはつしやすいえき	この研究 わけ	そのため えさが多いほど、においが強い	このように においをたどる ありの行列ができる。

４　研究主題に迫るための手立て

○　学びを生かしたゴールの設定

本単元の既習事項を生かしながら、「生き物のふしぎ」を紹介し合う活動を行う。生き物について紹介するためにも、ありについて分かったことや特徴などを読み取り、考えたことや不思議に思ったことなどを児童同士で交流していく。その後、ありや他の生き物へと視野を広げ、自身が引き付けられた生き物について友達に紹介できるよう「スクールタクト」に簡単な文章で書き、「生き物のふしぎレポート」としてまとめていく。単元の開始とともに、生き物に興味関心をもてるよう、教室に関連図書を置き、すぐに読書ができる環境を整える。

○　段落の役割を視覚的に捉える手立て

文章全体の構成を見て分かりやすくするために図にまとめる。形式段落の番号だけでなく、「はじめ」「中」「おわり」の大きなまとまりに分けたり、「問い」と「答え」があることで、それらの段落が文章全体に対してどのような役割があるかを押さえたりして、図に書き込む。説明的な文章を読む際に、文章全体の構成を分かりやすくするための方法であることを実感させる。本単元では、「説明文の家」と名付けた図を使い、「大きな部屋」「中くらいの部屋」「小さな部屋」ごとに「まとまり」を意識できるようにする。全体で確認しながら表を完成させていき、自力で段落の役割を考えられるようにしていく。

○　ICT 機器の活用

文章の構成や中心文を理解したり、児童の考えや感想を共有したりするために、「デジタル教科書」と「スクールタクト」を活用していく。

「デジタル教科書」では、文章の構成や中心となる文を線で引いたり、枠で囲んだりすることで、視覚的に重要な場所を見付け、情報を整理していく。また、紙の教科書とは異なり、線を引いたり消したりすることが簡単なため、児童が作業することに抵抗を感じにくくする。

「スクールタクト」では、児童同士の読み取ったことをもとに児童の考えや感想を書き、児童同士で全体共有できるようにしていく。友達の考えから自分の考えを広げたり深めたりすることで、話し合い活動の充実を図っていく。

○　振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として、「分かったこと」「もっと知りたいこと」の２つを挙げ、感想だけでなく、自分の学習について振り返ることができるようにする。コメント等での価値付けや助言を行うことで、自分の学びを具体的に振り返ることができるようにする。また、児童の振り返りを全体の前で取り上げることで、学習の積み重ねを実感できるようにする。

○　語彙を豊かにする日常活動

「言葉のたから箱」の言葉を用いた文章作りや辞書での意味調べを、家庭学習や短時間学習（モジュール学習）の時間を使って日常的に行っていく。言葉の意味や使い方に着目しながら、自分の考えを表現するのにふさわしい言葉を選ぶことができるようにする。

5　単元計画と評価計画（全８時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
家庭学習→短時間学習 初めて読んだ文章に対して感想をもつ。			1　範読を聞き、感想を書く。 2　感想を交流する。	・初発の感想を共有する。
	1	学習課題を設定して学習の見通しをもつことができる。	1　既習事項と初発の感想の確かめをする。 2　確かめたことから必要な学習活動を考え、学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 生き物のふしぎを伝え合おう。 3　本時の目標を確認する。 学習の計画を立てよう。 4　本時の振り返りをする。	・「こまを楽しむ」「すがたをかえる大豆」の学習計画の振り返りをする。
	2	段落相互の関係に着目しながら、「問い」と「答え」を見付けたり、「初め」「中」「終わり」の構成を捉えたりすることができる。	1　本時の目標を確認する。 「はじめ」「中」「終わり」に分けて、文章の組み立てをつかもう。 2　「問い」と「答え」を見付けながら、「初め」「中」「終わり」の分け方を考える。 3　「問い」と「答え」を確かめ、「初め」「中」「終わり」に分ける。 4　「すがたをかえる大豆」との構成の違いを考え、「答え」が「終わり」にだけある文章構成を捉える。 5　本時の振り返りをする。	・文章構成表（「説明文の家」）に「初め」「中」「終わり」をまとめさせる。 ◆イ-① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由などについて、叙述を基に捉えている。 【ワークシート・ノート】
	3 本時（2組）	指示する語句や接続する語句に着目し、どのような順序で説明が書かれているか、叙述を基に捉えることができる。	1　本時の目標を確認する。 「中」を、どのようなじゅんじょで、どのようにせつ明しているか読み取ろう。 2　ウイルソンがどのような実験・観察、研究をしたのかを考える。 3　実験・観察、研究の順序を捉える。 4　ウイルソンの実験・観察、研究について、図にまとめる。 5　本時の振り返りをする。	・「デジタル教科書」を用いて、着目する語句にサイドラインを引かせる。 ◆ア-① 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 【ワークシート・ノート】

	4 5 本時（1組）	文章表現に着目して、「研究の進め方」「ありが行列を作る仕組み」を短くまとめ、叙述の内容を捉えることができる。	1　本時の目標を確かめる。 大事な言葉や文を見つけ、「ありの行列」を、短くまとめよう。 2　文末表現に着目し、その違いを考える。 3　「ウイルソンがしたこと」と「分かったこと」にサイドラインを引く。 「ウイルソンがしたこと」 →「研究の進め方」 「分かったこと」 →「ありが行列を作る仕組み」 二つの観点と対応していることを確かめる。 4　「研究の進め方」「ありが行列を作る仕組み」の二つの観点ごとに、文章に書かれていることを短くまとめる。 5　本時の振り返りをする。	・文末表現「―ました。」は赤、「―です。」「―ます。」は青のサイドラインを引かせる。 ☆中心となる言葉や文にサイドラインを引いたプリントを用意する。 ◆イ-① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【ワークシート・ノートの記述・発言】
	6	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。	1　本時の目標を確認する。 「ありの行列」を読んだ感想をまとめよう。 2　まとめた文章を読み、「ありの行列」に対する理解を深める。 3　感想の書き方を確かめ、感想を書く。 《3つの観点》 ・引きつけられたこと ・もっと知りたいと思ったこと ・考えたこと 4　「スクールタクト」で感想を読み合い、交流する。 5　本時の振り返りをする。	・「もっと知りたいと思ったこと」は、他の資料や本を調べるとよいことに気付かせる。 ◆イ-② 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【ワークシート・ノート】
		短時間学習	「もっと知りたいと思ったこと」を広げられるよう、「もっと読もう」の他に、ありを含めた生き物に関連する本を読む。	
	7	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。	1　本時の目標を確認する。 生き物のふしぎをまとめよう。 2　一番ひきつけられた「生き物のふしぎ」を選び、既習の学習を活かして、一番不思議だと思ったことと感想を「スクールタクト」に書く。 3　本時の振り返りをする。	◆イ-② 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【「スクールタクト」】

	8	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くことができる。	1　本時の目標を確認する。 自分がえらんだ「生き物のふしぎ」を伝え合おう。 2　「スクールタクト」に書いた「生き物のふしぎ」を読み合い、「生き物のふしぎレポート」として共有することを確かめる。 3　ペアになり、相手の「生き物のふしぎレポート」に対する一言感想をペアの相手に書く。 3　グループ内で相手を変えて、一言感想を書き合い、交流する。 4　全体で、交流の振り返りをする。 5　学習の振り返りをする。	・交流の際、共通点・相違点に着目している一言感想を取り上げ、価値づける。 ◆イ-③ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付いている。 【「スクールタクト」】

６　本時の展開

２組（３／８）

（１）ねらい

指示する語句や接続する語句に着目し、どのような順序で説明が書かれているか、叙述を基に捉えることができる。

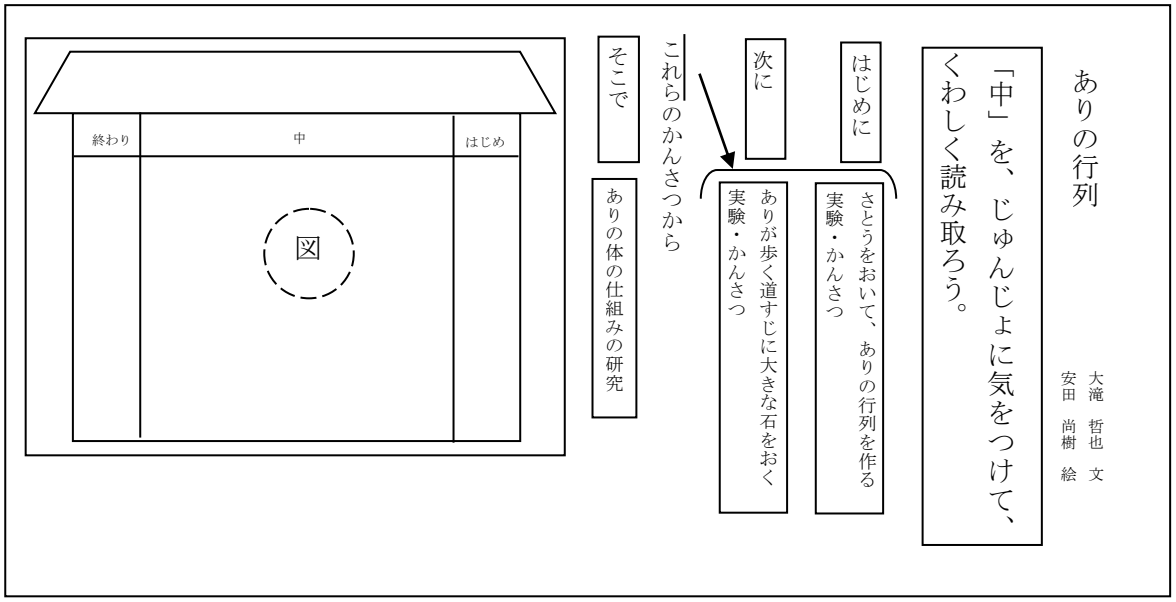
（２）本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	１　前時の振り返りを共有する。 ２　本時の目標を確認する。 「中」を、じゅんじょに気をつけて、くわしく読み取ろう。		
展開	３　ウイルソンがどのような実験・観察、研究をしたのかを考える。 ４　実験・観察や研究の順序を捉える。 T　どのような順序で書かれていましたか。 C　「はじめに」砂糖を置く実験をしている。 C　「次に」ありが歩く道すじに大きな石を置いた。 C　「これらのかんさつから」の「これ」は２つの実験・観察のこと。 C　実験・観察の後に研究した。 ５　ウイルソンの実験・観察、研究について図にまとめる。	・中心となる言葉や文に着目している。 ◎自分の考えを、根拠となる理由とともに伝えようとしている。	・順序を考える前に、概要把握のため、どのような実験・観察、研究を行っていたか考えさせる。 ☆読み取りが十分でない児童には、穴埋めで考えられるようなヒントのプリントを配る。 ・接続する語句に印を付けさせる。同様に、指示する語句にも印を付けさせ、何を指し示しているかを捉えさせる。 ・「説明文の家」と名付けた図（文章構成図）を用いて情報の整理をして、段落相互の役割の理解につなげる。 ◆ア-① 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 【ワークシート・ノートの記述、発言】
まとめ	６　本時の振り返りをする。		・振り返りの以下の視点を示す。 「分かったこと」 「もっと知りたいと思ったこと」

（３）授業観察の視点

・図にまとめるという活動が、叙述を捉えることに対して有効な手立てとなっていたか。

（４）板書計画


ありの行列
大滝　哲也　文
安田　尚樹　絵
「中」を、じゅんじょに気をつけて、くわしく読み取ろう。
はじめに
さとうをおいて、ありの行列を作る実験・かんさつ
次に
ありが歩く道すじに大きな石をおく実験・かんさつ
これらのかんさつから
そこで
ありの体の仕組みの研究
終わり
中
はじめ
図

6 [redacted]

（1）ねらい

文章表現に着目して、「研究の進め方」「ありが行列を作る仕組み」を短くまとめ、叙述の内容を捉えることができる。

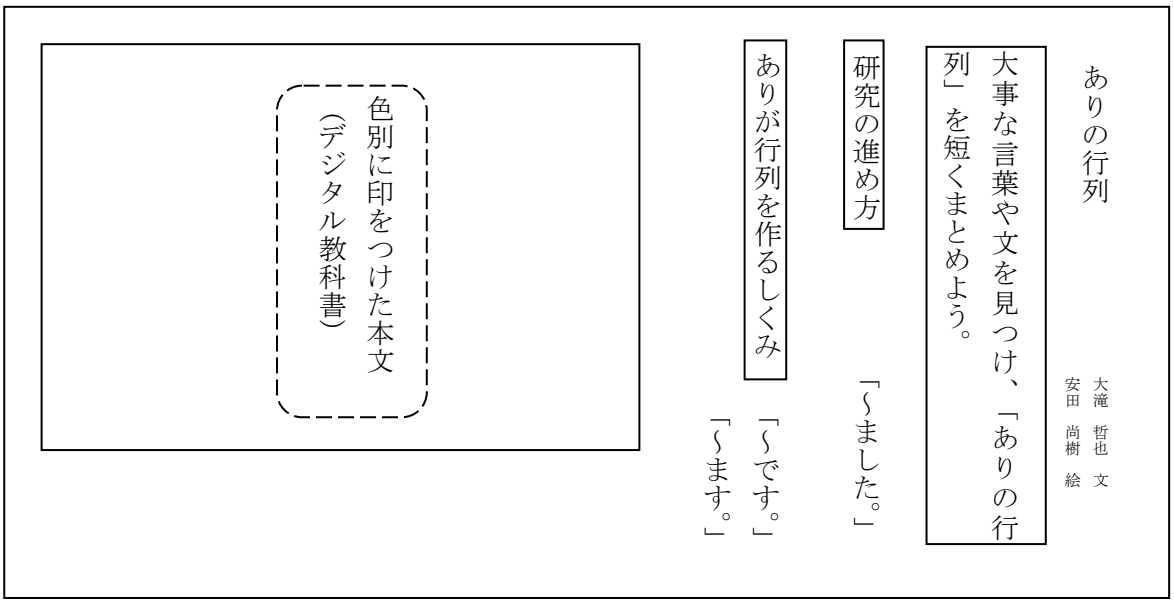
（2）本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◈評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
前時	「ウイルソンがしたこと」と「分かったこと」に、印を付ける。		・観点ごとに、色の違う印を付けさせるようにする。
導入	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 大事な言葉や文を見つけ、「ありの行列」を短くまとめよう。		
展開	3　「研究の進め方」「ありが行列を作る仕組み」の二つの観点ごとに、文章に書かれていることを短くまとめる。 T　文末表現に注目して、まとめましょう。 C　「ウイルソンがしたこと」は「研究の進め方」になる。 C　「分かったこと」を「ありが行列を作る仕組み」にまとめればいい。 4　「スクールタクト」で、書いた文章を共有する。 T　短くまとめた文章を読み返してみましょう。 C　ウイルソンが、分かったことから、また考えていくのがすごい。 C　おしりから、とくべつのえきを出すのがおもしろい。	・文末表現に着目している。 ◎自分の考えを、根拠となる理由とともに伝えようとしている。	・色別に印を付けた叙述を基に書いていけばよいことを確かめる。 ・「短くまとめる」ためには、敬体を常体にすること等を押さえる。 ☆中心となる言葉や文に印を付けたプリントを用意し、印の色ごとにまとめることを確かめる。 ・要約については、質を高めることを目的とせず、経験させる活動に留める。 ◆イ-① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【ワークシート・ノートの記述、発言】
まとめ	6　本時の振り返りをする。		・振り返りの以下の視点を示す。 「分かったこと」 「もっと知りたいと思ったこと」」

（3）授業観察の視点

・二つの観点から短くまとめることが、叙述内容の確かな理解となっていたか。

（４）板書計画


ありの行列
大滝　哲也　文
安田　尚樹　絵
大事な言葉や文を見つけ、「ありの行列」を短くまとめよう。
研究の進め方
「～ました。」
ありが行列を作るしくみ
「～です。」
「～ます。」
色別に印をつけた本文
（デジタル教科書）